

動物たちと人間たちの共生－動物園にみるウェルビーイング

小菅 正夫

札幌市環境局 参与／北海道大学 客員教授／旭川市旭山動物園 元園長

人類は、その誕生から700万年の間、自然の中で多くの生きものと共生してきた。ところがつい最近、100年ほど前から人類の社会活動によって絶滅する生きもの数が加速度的に増え始めた。このまま動物と共に生きていく手を人類が講じなければ、そう遠くないうちに我々の見知っている動物の多くが姿を消してしまうだろう。その手の一つが動物園による希少種の保全活動である。

動物園は、野生動物を飼育する目的の一つとしてそのことを掲げ、多くの希少種の繁殖研究で実績を上げてきた。しかしながら動物園の評価は、入園者数と飼育動物数、そして繁殖種数だけで評価され、動物の幸福(Well being)に配慮されては来なかった。でも近年は、動物が幸せに暮らしていることが重要視されるようになってきた。つまり、飼育されている動物は、各々生活スタイルを尊重され、その固有の活動と、高い生活の質(QOL)が保証されなければならないのだ。

札幌市動物園条例では、動物園の目的を生物多様性の保全として、飼育される動物の良好な動物福祉が維持されねばならないと謳っている。

略 歴

1948年	札幌市生まれ
1973年3月	北海道大学獣医学部獣医学科 卒業
1973年4月	旭川市旭山動物園 獣医師
1986年4月	旭川市旭山動物園 飼育係長
1991年4月	旭川市旭山動物園 副園長
1995年4月	旭川市旭山動物園 園長
2009年4月	旭川市旭山動物園 名誉園長
2010年3月	旭川市 退職
2010年7月	中央環境審議会 臨時委員～2021年
2010年8月	北海道大学 客員教授
2015年10月	札幌市環境局 参与(円山動物園担当)